



令和 4 年 12 月 / 日
午前・午後 8 時 30 分 受領

No. 1

令和 4 年 12 月 1 日

議長	事務局長	係

愛南町議会議長 原田 達也 殿

愛南町議会議員 少林 法子

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

(答弁一括方式

答弁分割方式)

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
<p>1. 公民館を中心とした地域活性化について</p> <p>急激な過疎化、高齢化によって、地域では集落活動が衰退しています。婦人会、青年団、といった各種の団体はなくなり、また学校の統廃合等も相まって、人と人とのつながりやコミュニティは希薄化、自治活動も脆弱化しました。その結果、防災や環境整備、健康促進、福祉、地域文化伝承など、その地域のいろいろな課題に対して、行政依存や先延ばしさらには諦めへとなっているのが現状です。したがって、公民館が地域に入りこんで、活性化の火付け役になることは大変重要な役割を担っていると思います。</p> <p>さて、公民館による地域活性化については、令和2年に島根県浜田市等に先進地視察を行い、同僚議員が平成2年3月議会で一般質問しております。その際、町長は公民館を中心とした地域活性化を進める、今後人材育成や機能強化を図るとお答えになっています。また、当時の中村教育長は、兼任する公民館主事を計画的に解消し1館1人制にしていく、活動予算もつける、と述べています。</p> <p>それから約3年がたちました。そこで、検証を兼ねて町長にお伺いします。</p> <p>(1) まず兼任解消についてです。地域に入り込むには地域に常駐する必要があるということからですが、3年前は公民館主事13人中7人が兼任でしたが、現在では16人中兼任は4名と、兼任が減って</p>	町長

ます。今後も、兼任解消に向けた取り組みが進むと考えてよいでしょうか。

(2) 次に年齢構成についてです。現在、公民館主事16名中で、50歳代が5割、60歳以上つまり会計年度任用職員が2割、つまり50歳代以上で7割です。愛南町社会教育基本方針の具体的推進の方策1に、「地域課題に直結する実効性のある公民館活動の推進」が掲げられています。指導主事が地域に入り込み、働きかけ、新しい試みで変えていく。これはまさに体力、情熱、知力を使う大変な仕事で、フットワークの軽さが必要です。また、改革には長期の見通しと実践が必要です。

このことから、会計年度任用職員でなく、若手を望む声が挙がっています。いかがでしょうか。

(3) 愛南町社会教育基本方針の具体的推進の方策2に「公民館事業の点検評価」、方策3に「関係職員の資質向上」があります。コロナ禍で活動が激減している公民館が多い中、工夫を凝らすことで、コロナ前と同じ程度活動している公民館があります。地域課題の防災について積極的に地域に働きかけている公民館や、地域人材を発掘して新しい取組を仕掛ける公民館がある一方で、公民館主事から積極的に働きかけた活動はない公民館もあります。公民館だよりを見ますと、小さな公民館でも独自の公民館だよりを出している所もあれば、6つの公民館で一つの公民館だよりの所もあります。

このように、公民館によって活動に差がありますが、点検評価、資質向上にどのように取り組んでいくおつもりでしょうか。

ちなみに、先進地を見ますと、島根県浜田市では、毎年全ての公民館が、地域の特色を生かした活動・取組を報告し合い、互いに高め合っているそうです。また、地域の声や活動を公民館が行政に伝え、施策に生かす仕組みを持っている所もあります。

2. 愛南町独自のふるさと学習プログラムの導入について

教育長

令和4年度学校教育重点目標及び施策をみますと、4特色ある学校づくりに「ふるさとに愛着をもち、ふるさとを誇りに思うことができる地域教育の充実」が掲げられています。

郷土愛は、アイデンティティの確立のためにも、また主体的な町づくりのモチベーションとしても大切なことだと思います。

地域教育には、歴史、産業、文化、自然環境等があり、ここでの学習の中心は五感を使った体験型の学習です。学習内容や時数は、各学校に任されているため、学校によって体験する分野が異なるのが現状です。広い視野で見た時、それでよいのか、疑問に思っていました。例えば、愛南町の自然の一大特徴として海中公園が挙げられます。これは愛南町の子ども全員に一度は体験学習させたいものですが、実際にサンゴなどの海中観察をするといった自然体験学習は、内海中学校以外ではしていません。現状では、多くの子どもは実体験のないまま、海中公園を知識としてだけもつことになっています。愛南町出身の子どもには、町の重要な特徴については、一通り体験を通した理解をさせてやるべきではないでしょうか。そこで質問です。

地域教育の充実のために、町内各分野の見どころを掲載し、共通実践すべき項目は指定した、愛南町独自のふるさと学習プログラムを作成することを、学校に提案するなどのお考えはないでしょうか。各教科部会で項目を洗い出し、先生方で作ることになると思いますが、社会科部会では、郷土資料の副読本を以前から作成・使用しており、ノウハウはあります。また、各校が資料を共有でき、準備手順が明確になるなど、効率よい運営に繋がり、先生方の負担減も見込まれます。